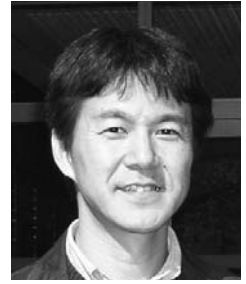


着任挨拶

犬飼 義明 プロジェクト開発研究領域 准教授

私はこれまでに、栽培学、作物生理学、育種学、土壌学、農業経済学およびリモートセンシング分野の研究者らにより構成された国際共同研究に参加し、開発途上国における農学領域の諸問題解決を目指した研究に取り組んできました。例えば、ケニアでは高原地域で生じるイネの冷害の克服を、フィリピンでは降雨のみに依存した天水田での乾燥ストレスの回避を、また、インドネシアに広がる沼沢地でのイネ生産性の律速要因である鉄過剰害への耐性の付与を試みてきました。また、これらの問題に対応していく上では、国際熱帯農業センター（CIAT）での研修時に学んだ様々な環境要因を複合的に捉える視点が非常に役に立っており、これまでに非常に多くの方々をサポートされながら研究を進めてこられたことに感謝しています。今後も同じ志を持つ多くの方々と協力し、途上国が抱える諸問題の解決、ならびにその実現を目指す国内外の人材育成に貢献したいと考えています。



略歴 1971年愛知県生まれ。1996年に愛知教育大学教育学部を卒業。2001年に名古屋大学大学院生命農学研究科農学専攻博士課程を修了後、佐賀大学海浜台地生物生産研究センター非常勤研究員、日本学術振興会特別研究員（COE）を経て、2004年に名古屋大学大学院生命農学研究科助手に採用される。2007年同助教を経て、2013年4月より現職に就任。

桂 圭佑 京都大学大学院農学研究科附属農場 助教 客員准教授（任期：2013年4月1日～2014年3月31日）

2013年4月1日付で客員准教授を拝命しました。これまで、イネやダイズなどの作物を対象に、作物学的アプローチから生産性の向上を目指して研究を行ってきました。国内だけではなく、アジアやアフリカ、アメリカなども対象にして、生産現場で得た知見を大切にしながら研究することを意識しています。本センターでは、専門領域の異なる先生方と触れ合うことも多く、また、国際協力を行う土壌も揃っており、日々刺激を受けております。スタッフの皆さんと協力しながら、農業生産現場への研究成果の還元を目指していきたいと思っております。また、研究・教育面での国際協力にもお役にたてればと思っております。浅学非才の身ではございますが、よろしくお願いたします。



略歴 1979年生まれ。2001年京都大学理学部理学科卒業。2003年京都大学大学院農学研究科修士課程修了。2005年より京都大学大学院農学研究科附属農場助手。2007年より同助教、現在に至る。

今井 成寿 Ph.D.登龍門推進室 特任准教授 農学知的支援ネットワーク（JISNAS）事務局 次長

2013年4月から名古屋大学の博士課程教育リーディングプログラムである登龍門推進室に所属しております。JICAでは、国際協力人材の育成、研修員受入、大学・自治体・NGOとの連携、社会保障分野のプロジェクト等を担当してきました。農業分野とのかかわりは、約3年間勤務した中央アジアにあるキルギス共和国で農業分野での案件形成を行った経験ぐらいしかありませんが、JICAで培った様々な業務経験を活かし、農国センターの発展に寄与していく所存ですので、今後ともよろしくお願いたします。



略歴 1972年愛知県江南市生まれ。2000年3月日本社会事業大学大学院博士前期課程（社会福祉学専攻）修了後、JICAに入団。国際協力総合研修所に勤務した後、外務省に出向し、本省で経済協力局国別計画策定室、のち在モスクワ大使館に勤務。JICAに復職し、中部国際センター、キルギス共和国事務所、人間開発部社会保障課に勤務。2013年4月から現職。